

「特別の教育課程」の編成について

日本語指導が必要な外国人児童生徒等が編入してきた。
日本語での会話が難しい！！どのようにすればよいですか？



「特別の教育課程」を編成して、取り出しによる日本語指導を実施することができます！

学校における日本語指導の流れ

児童生徒の受入れ

日本語の能力、生活・学習状況・適応状況等の把握

※ No. 2 で御紹介しました。

日本語指導において特別な支援や配慮が必要

- ① 日本語で日常会話をすることが難しい。
- ② 日常会話ができても、学習場面で使われる言語の習得が不十分なため、授業（学習活動）への取組に支障が出ている。



日本語指導において特別な支援や配慮は不要



「取り出し」指導による
日本語指導

【特別の教育課程】
別教室での指導

在籍学級での指導

【通常の教育課程】

「入り込み」指導による支援
担任・教科担当等
授業者による支援や配慮

在籍学級での指導

【通常の教育課程】

※ 年間10単位時間～280単位時間を標準とする。 ※ 「特別の教育課程」による日本語指導と、「入り込み」指導等その他の指導を組み合わせることも考えられる。

「特別の教育課程」による日本語指導を行う場合は…

- ① 「特別の教育課程編成・実施計画」を作成し、市町教育委員会へ提出する。
- ② 「個別の指導計画」を作成する。
(1) 児童生徒に関する記録（様式1）※ NO. 2 参照
(2) 指導に関する記録（様式2）



3種類作成する
必要があります！

「特別の教育課程」による日本語指導の目的

- ① 児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むことができるようにする。
- ② 児童生徒が在籍学級での学習に取り組むことができるようにする。
↳ 学習内容は在籍学級の担任や教科担当教員と連携しながら進めることが求められます。

児童生徒の日本語能力に応じた特別の指導（日本語指導）が必要な場合、通常の教育課程による指導だけでなく、「特別の教育課程」を編成して日本語指導を行うことができます。

「学校教育施行規則の一部を改正する省令等の施行について」平成26年1月14日 文部科学省通知
義務教育指導課公式 facebook <https://www.facebook.com/hirogimu>
広島県教育委員会 HP 「帰国・外国人児童生徒等教育・日本語指導関連情報」
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku12/nihongoshidou.html>

特別の教育課程編成・実施計画（参考様式 記入例）

（学校設置者に提出する指導計画・報告 記入例）

〇〇年度 特別の教育課程編成・実施計画（参考様式）

「報告」の記入例も
本シートを参照のこと。

この様式例にこだわることなく、従来の名簿
等を適宜改良して活用することも考えられる。

学校名	〇〇市立〇〇小学校
学校長	〇〇 〇〇
提出日	平成〇〇年 〇月 〇〇日

指導内容：①サバイバル日本語、②日本語基礎、③技能別日本語、④日本語と教科の統合学習、⑤教科の補習

No.	学年	児童生徒氏名	指導内容						指導時間	指導形態		指導者								
			学習段階	①	②	③	④	⑤		その他	指導期間									
1	小1	〇〇 〇〇 〇〇	初期の前期	○	○					週4時間	グループ指導	〇〇〇〇								
											H26.4～									
2	小2	〇〇〇 〇〇	初期の後期		○		○			週4時間	週2 グループ指導 週2 個別指導	〇〇〇〇								
											H26.4～									
3	小2	〇〇 〇〇 〇〇	教科につながる学習				○	○		週2時間	個別指導	〇〇〇〇								
											H26.4～H26.12									
4			年度途中で「特別の教育課程」による指導を終了した場合は、指導期間を記入しておく。																	
5	小4	〇〇 〇〇	初期の前期	○	○	○				週6時間	〇〇小学校へ通級 (週4 グループ学習 週2 個別指導)	〇〇〇〇 (〇〇小教諭)								
											H26.10～									
6			編入など、年度途中で「特別の教育課程」による指導を開始した場合は、順次追記しておく。																	
7	小6	〇〇〇 〇〇 〇〇	教科につながる学習				○	○		週2時間	巡回指導 (週2 グループ学習)	〇〇〇〇 (巡回指導)								
											H27.1～									
8			日本語指導の内容を、「初期の前期」「初期の後期」「教科につながる学習」の3つの段階で大きく分けるなどが考えられる。																	
9												①～⑤は「外国人児童生徒受入れの手引き」(文部科学省)p26～を参考にしている。おおまかな内容で良い。複数の例を登録しておき、選択できるようにすることも考えられる。								
10																				
11			本計画書を教育委員会に提出した後も、「特別の教育課程」による指導の終了時や、転編入児童生徒に対して新しく「特別の教育課程」による指導を始めるとき、又は学習評価などを踏まえて指導計画を変更した際など、各学校において適宜追加・修正を行い、年度の終わりに報告一覧として、教育委員会に提出すること。																	
12												「入り込み」指導等を行っている場合に、「その他」欄に参考に記載することも考えられる。								
13																				

個別の指導計画 様式 1 (児童生徒に関する記録)

(学校内で作成する指導計画 記入例)

個別の指導計画(参考様式)

様式 1 (児童生徒に関する記録)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
在籍					H23	H24	H25	H26	
フリガナ 児童生徒氏名 (通称)					(男・女)	国籍等	ブラジル		
フリガナ 保護者氏名 (通称)						続柄	父		
生年月日	平成12年 5月								
入国年月日	平成23年 3月								
家族構成	祖父、父、母								
家庭内使用言語	祖父・弟と								
生育歴・学習歴	ブラジルで 平成23年 平成25年 平成26年								
学校内外での支援状況	毎週								
進路希望	進学								
その他	発達障害等の診断の有 宗教上の配慮事項								

様式 1 (児童生徒に関する記録) 個別の指導計画 【学校内で作成する指導計画 記入例】

フリガナ	氏名	性別	国籍	A国					
(通称)		主な言語							
入国年月日	令和 年 月 日	学校受入年月日	平成 年 (西暦) 月 日	令和 年 月 日					
健康状態	※ 持病, アレルギ-疾患, 結核検診, 麻疹の既往症歴等 ○○のため, 薬 (●●) を服用している。								
宗教上の配慮事項	※ 習慣, 食べ物, 服装等 ○○教のため, ○○を食べることができない。								
永住, 帰国予定等 今後の予定	永住を希望している。								
家族構成	氏名	続柄	国籍	在留資格					
		父	A国	在留期間 (満7日) ●年●月●日					
		母	A国	本人との言語 A国語					
		兄	A国	日本語理解の状況・備考 簡単な日本語の会話が可能					
家庭への連絡手段・連絡先	日本語・A国語 日本語での会話は難しい 日本語での会話が可能								
学年	年齢	就学等の状況	特記事項						
0		出生地 A国							
1		A国							
2		A国							
3									
4		3月来日 ○○市立○○保育園に入所							
5		7月A国に帰国 A国の幼稚園に入園							
6		A国の幼稚園卒園							
小1	7	A国 ○○小学校入学							
小2	8	A国 ○○小学校							
小3	9	A国 ○○小学校							
小4	10	A国 ○○小学校							
小5	11	○○市立○○小学校 6月編入 特別の教育課程による日本語指導 (週●時間)							
小6	12	○○市立○○小学校 卒業 特別の教育課程による日本語指導 (週●時間)	地域の日本語教室「○○」 週2回						
中1	13	○○市立○○中学校 入学 特別の教育課程による日本語指導 (週●時間)	地域の日本語教室「○○」 週2回						
中2	14	○○市立○○中学校 卒業 特別の教育課程による日本語指導 (週●時間)	地域の日本語教室「○○」 週1回						
中3	15	○○市立○○中学校 卒業 特別の教育課程による日本語指導 (週●時間)							
中学校卒業後の進路希望	高校, 大学へ進学し, 日本で就職することを希望している。								
学級担任	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
日本語指導者					●●●●				
					○○○○				
					180時間				

受け入れの際に, 聞き取って記録をして
おけば, その後ずっと, 引き継いでいける
重要な情報になります。
新たに把握した情報は, 加筆していきま
しょう。

可能な範囲で聞き取りましょう。
児童生徒の成育歴, 就学状況を把握し
ておくことは, 今後の指導を行う上で重
要な情報になります。

参考になる情報は, 加筆していきま
しょう。

NO. 2 で御紹介した, 受け入れ時の
聞き取り内容を網羅している
「様式 1 (児童生徒に関する記録)」で
す。是非, 御活用ください!

個別の指導計画 様式 2 (指導に関する記録)

(学校内で作成する指導計画 記入例)

個別の指導計画 (参考様式)

児童生徒の日本語力について
記載します。

様式 2 (指導に関する記録)

フリガナ	() 年	作成者	作成日	年 月 日
児童名			更新日	年 月 日

日本語力	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文型で構成された2~3文の会話を、ゆっくりとした速さなら聞いて理解できる。 ・理解できる言葉であっても、自分で話したり書いたりできる内容は限定的である。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 5px;">※児童生徒の日本語の力を、「話す、読む、書く、聴く」の4技能、あるいは①会話力(主として単語での発話か、単語を幾つぐらいつなげて話しているか、どの程度の文が聞き取れているかなど。)②文字の習得度(ひらがな・カタカナ・漢字が何年生程度かなど)③読解作文の力(単文レベルか、重文・複文まで可能か、それらで構成された文章はどのような内容まで理解できるかなど)などの視点から記入する。</p>
------	---

指導目標	<p>【初期の後期段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。 ② 日本の学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 5px;">※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「大目標」等が考えられる。</p>
------	--

指導計画

	月	4	5	6	7	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 5px;">※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「日本語の学習段階」等が考えられる。</p>
--	---	---	---	---	---	--

「特別の教育課程」による日本語指導	段階	初期の後期段階				
日本語学習内容		① 日本語の基礎学習		② 技能別の日本語学習		
		③ 日本語と教科の統合学習		③ 日本語と教科の統合学習		
		※8月に計画を見直して記載する。		④ 教科の補習		

※「外国人児童生徒の受入れの手引き」(文部科学省)p26~の「日本語指導のプログラム」等が考えられる。

指導計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な文型や語彙を使って会話ができるようにする。 ② 平易な文で構成された、ある程度まとまった内容の文章を読んで理解できるようにする。 ③ 教科書を簡単な日本語に書き換えたもので在籍学級の授業の予習を中心に行う。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 算数・理科はなるべく教科書を使い、学習活動に必要な重要表現を取り上げて指導する。 ④ 未習事項が多いので、在籍学級の学習に関係する内容から補う。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 5px;">※上の表で示した「日本語学習内容」の内容別に記入することが考えられる。 各教育委員会等で独自の「学習段階」「学習内容」を設定している場合は、それに基づいて記入する。 ※一例として、「学習目標例」(※注)を参考に計画すること等が考えられる。</p>
------	---

指導者	○○巡回指導員		
-----	---------	--	--

指導場所	○○ルーム	指導時数	週4時間
------	-------	------	------

上記以外の指導等	社会科は週2時間 在籍学級で TT 指導。 毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加。
----------	---

指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲はあるが、教科に関する未習事項が多く、授業内容に対応しきれっていない。 ・関心のある分野であれば、ある程度まとまった文章を理解できるようになった。 ・表現することに苦手意識があるようなので、発言や作文がしやすいような支援方法を検討する必要がある。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 5px;">※どのような指導をした結果、どのような習得結果となったかについて記入する。 今後に向けて、どのような指導をしていくとよいかなどの参考になることを記入しておくことと次年度の指導につなげることができる。</p>
-------------------------	--

※注 情報検索サイト「かすたねっと」の「教材」→「指導者」から、資料を検索することができる。